

●社会に目を向ける

舟入高校2年生にとって特に注目すべき年末の2大ニュース (課題研究 関連)

その1 宇宙開発 宇宙飛行士 金井宣茂さん ソユーズ 飛び立つ

先の普通修学旅行で、種子島宇宙センターに展示紹介があった金井さんが17日、カザフスタンのバイコヌール宇宙基地から飛び立ちました。 【種子島宇宙センターで撮影】

【18日付中国新聞記事を中心に

金井さんの横顔を紹介】



- ・金井さんは、海上自衛隊医師からの転身。
- ・高校3年間は弓道に熱中。「どんな状況でも心を鍛えて自分と周りを冷静に見ることを学んだ」という。
- ・防衛医科大学に進学。進学の動機は、「海外で活動する医師への憧れ」。
- ・自衛隊の医師としての仕事の傍ら、「居合道」に熱心に取り組む。
- ・2008年、JAXAが10年ぶりに飛行士を募集。米海軍の学校で潜水医学を学んだ時、同じ専門の医師が飛行士になったことを知り、宇宙に関心を抱く。宇宙への憧れと医師のやりがいと交錯する中、居合道を指導した先輩の自衛官から、「一步踏み出すことが大切」と背中を押され応募する。
- ・960人の応募で2009年2月の結果発表で合格者は2名のみ。金井さんは補欠だった。
- ・それでも落ち込む様子はなく、「いつ追加で呼ばれてもいいように」と、休み時間、仕事後のランニングや語学の勉強を黙々と続ける。
- ・「腐らずに自分を磨いていた」と当時を知る仲間は口をそろえる。
- ・半年後、朗報が届く。が、この時も、「本当に合格したのかと疑いたくなるほど冷静だった」と同僚は話す。
- ・飛行士選抜を担当したJAXAのグループ長も「選考は間違っていなかった。まだまだ伸びしろを感じる。」と高く評価する。
- ・モットーも特になく、縁起も担がないという金井さんは、「何があっても最後は自分で対処するしかない。武道精神で乗り切る。」「普段通り、頑張ってくる。」と語り飛び立った。

【JAXA プレスリリース 19日付 より紹介】

- ・19日、国際宇宙ステーション (ISS) にドッキングし、**約6カ月に渡る長期滞在を開始**したそうです。**帰還予定日は6月3日**です。
- ・「今回のISS**長期滞在ミッションテーマ**ともなっている**「健康長寿」**という社会課題の解決を目指し、アルツハイマー病などの原因となるアミロイド線維の構造や形成機構を明らかにする実験やタンパク質結晶生成実験など、様々なミッションに取り組む予定です。金井宇宙飛行士は、医師出身であることに加え、これらの研究の背景や実験計画について実験の提案者から直接レクチャーを受けており、彼の能力を存分に発揮し、「きぼう」日本実験棟の利用を通じて素晴らしい成果を創出することを期待しております。」と紹介されています。

ノーベル平和賞受賞

※〇〇〇〇〇〇に言葉(漢字5字)を入れてください。

<被爆者サーローさん演説>

- ・サーロー節子さんは、広島市南区出身の被爆者。13歳で被爆。
- ・現在はカナダ・トロントに在住、85歳。被爆者が授賞式で演説するのは初めてのこと。
- ・被爆体験の証言を通じてICANの活動を支えてきた。
- ・サーローさんの演説全文は、新聞各紙にも掲載されているので(英語版、日本語版)、是非一読してみましょう。「ノーベル財団公表の公式テキスト」によると紹介があります。
- ・サーローさんの演説の「見出し」を以下に紹介します。

- ①座視しない … 核への恐怖の中に座視するのではなく、立ち上がった。
- ②叫ぶ声が聞こえた… 倒壊した建物の中で、「諦めるな。頑張れ。助けてやる。あの暗闇から光が差すの見えるか。あそこまで、できるだけ速く走っていった。」という声が聞こえた。
- ③愚行を許さない … 核兵器は必要悪ではなく、絶対悪である。
- ④終わりの始まり … 7月7日国連で核兵器禁止条約が採択される。これを核兵器の終わりの始まりにしよう。世界のあらゆる国がこの条約に参加することを懇願する。
- ⑤光に向かって … 核の恐怖という暗い夜から抜け出そう。どんな障害に直面しようとも、私たちは進み続け、頑張り、他の人たちとこの光を分かち合い続ける。この光は、かけがえのない世界を存続させるために私達が傾ける情熱であり、誓いなのだ。

<ベアトリス・フィン ICAN事務局長演説>要旨 (12日付 中国新聞より)

- ①世界には約1万5千個の核兵器がある。
- ②理想主義者と批判されるが、私たちは、核兵器の拒否という理性的な選択肢を示している。
- ③核兵器が使われているリスクは冷戦末期より高まっている。核武装国が増え、テロリスト、サイバー戦争も安全を脅かしている。
- ④目をつぶり、受け入れることに慣れてしまうのは大きな過ちだ。
- ⑤これまで核戦争が起きなかったのは賢明な指導者のおかげではなく、運が良かっただけだ。
- ⑥他者を支配するため、女たちではなく男たちが核兵器を造ったが、私たちはその核兵器に支配されている。
- ⑦北朝鮮などで、核兵器の存在が他者を核競争に駆り立て、紛争を引き起こしている。
- ⑧草の根の努力が、核兵器禁止条約に結実した。
- ⑨核の傘に入る国々は、共犯者になるのか。
- ⑩私たちは偽りの傘の下で暮らしている。核兵器は私たちを安全になどしない。
- ⑪私たちは核兵器に立ち向かうための揺るぎない規範を手にした。核兵器使用を防ぐには、禁止し廃棄するしかない。